

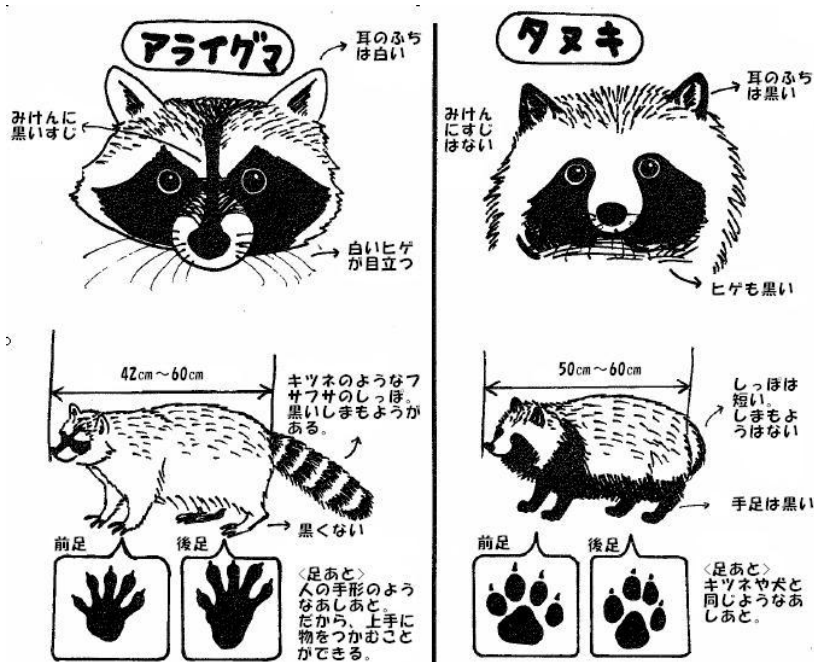
## アライグマ

「タヌキが死んでた。T字路のちょっと手前だ」と酒井さんがおっしゃる。到着して作業の支度をしていましたが、どれどれと確認しに行きました。タヌキではなく尻尾の縞々が特徴のアライグマでした。車にはねられた事故のようでした。撮影日時は 2015 年 10 月 5 日 9 時 29 分でした。



澄川森林にアライグマがいることは足跡で確認してはいましたが、死骸ではありませんが実物で確認したのは初めてです。数年前に札幌市が行っていた捕獲用の罠を沢にかけたのですが、空振りでした。[北海道アライグマ対策基本方針]によりますと、驚くばかりの繁殖力でほぼ北海道全土に分布している状況が報告されています。農業被害等も莫大になっており深刻さがよくわかりますので、詳しく知りたい方はネットで検索すればごしゃまんの記事が羅列されますのでご確認ください。

ネットの情報でタヌキとの比較が見つかりましたので転載させていただきます。



澄川森林にタヌキも棲んでいることは「溜糞」があることや、実物の視認で確認済みです。家族集団で行動するタヌキが単独行動のアライグマを追放した気配を感じてしまいましたが、アライグマがまだ頑張っていたということでありました。

1970年代にアメリカのテレビドラマで「アライグマラスカル」がやたらと利口でめんこさを強調していた

記憶がありますが、これの人気のペットとして輸入され飼育がブームとなり、あげく成獣の凶暴さをもてあまされて放逐されたのが、天敵の少ない日本で大繁殖をしたわけで、アライグマの罪ではありません。人災でありましょう。

北海道としてはアライグマを目の敵にしていますが、雑食性の野生動物を撲滅するのはほぼ不可能です。人間がその最たる存在で地球上で大繁殖をしていて、民族的なテリトリーや食料、資源の争奪戦で果てしない殺し合いをしているわけで、アライグマにしてみれば「人間には言われたくない」と思っていることでしょう。